

|             |   |
|-------------|---|
| Title       | <知の先達たちに聞く(5): 応地利明先生をお迎えして> 応地利明先生: 略歴と業績                                    |
| Author(s)   |   |
| Citation    | イスラーム世界研究: Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies (2012), 5(1-2): 78-87       |
| Issue Date  | 2012-02   |
| URL         | <a href="https://doi.org/10.14989/161192">https://doi.org/10.14989/161192</a> |
| Right       |   |
| Type        | Departmental Bulletin Paper   |
| Textversion | publisher   |

知の先達たちに聞く (5)

## 応地利明先生をお迎えして——大同生命地域研究賞受賞記念講演会——

京都大学名誉教授応地利明先生が2010年度大同生命地域研究賞を受賞されたことを記念して、2010年12月9日(木)に講演会を開催した。先生を京都大学にお招きし、催された講演会での講演タイトルは、「インドと中国——それぞれの文明の「かたち」であった。応地先生は、南アジアをご専門とされる地理学者として研究を始められたが、博識と雄大な構想力をもって、比較文明的観点を常に念頭に置きながら、地域研究の発展に大きく寄与された。とくに南アジア村落研究・農耕研究、インドのデカン高原と西アフリカ農耕の比較地域研究、インド・中国・東南アジアの比較都城研究、日本・西欧を含めた古地図・絵地図の分析による世界認識のあり方を実証した研究は、対象範囲の広がりりと洞察の深さで、他の追隨を許さない。本講演会でも、詳細な細部と壮大な視野の両軸が交差するところに、インドと中国の文明の特質が余すところなく語られ、聴衆を大いに魅了した。この記事は上述の講演会を、「知の先達に聞く」シリーズの一環として再現したものである。以下、講演会記録に移る前に、応地先生の略歴と業績を記す。

### 応地利明先生——略歴と業績——

- 1938年 大阪府出身
- 1960年 京都大学文学部史学科地理学専攻卒業
- 1964年 京都大学大学院文学研究科博士課程退学
- 1964年 名古屋大学文学部助手
- 1966年 名古屋工業大学講師
- 1969年 愛知県立大学文学部助教授
- 1973年 京都大学文学部助教授
- 1986年 同 文学部教授
- 1994年 同 東南アジア研究センター教授
- 1998年 同 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
- 2000年 京都大学名誉教授、滋賀県立大学人間文化学部教授
- 2005年 立命館大学文学部教授
- 2008年 同 退職

### 業績一覧

#### 2011年(平成23年)

『都城の系譜』京都大学学術出版会(732頁)

#### 2010年(平成22年)

「カザフスタン南部村落の訪問調査——「社会主義氷河」後氷期の風景」『オアシス地域研究会報』8巻1号 総合地球環境学研究所 145-170頁

「南アジアの〈環境—農耕〉系の歴史展開」水島司編『環境と歴史学——歴史研究の新地平』(「アジア遊学」136) 勉誠出版 200-209頁

「東と西の環境論」「生態史観」『地球環境学事典』(事典項目) 弘文堂

### 2009年(平成21年)

- 福井憲彦ほかとの共著『人類はどこへ行くのか』(「興亡の世界史」20) 講談社(384頁)
- 「ユーラシア深奥部——3つの生態・生業系の収斂場」窪田順平ほか編『イリ河流域歴史地理論集——ユーラシア深奥部からの眺め』松香堂 1-32頁
- 「文化・文明・「近代化」」京都文化会議記念出版編集委員会編『こころの謎 kokoroの未来』京大  
学術出版会 393-428頁
- 「兩種都城思想及其展開——印度世界与中国世界」=「2つの都城思想とその展開——インド世界  
と中国世界」日本総合地球環境学研究所・中国復旦大学歴史地理研究中心『中国的城市化過程  
と環境問題』=国際研討会報告集・『中国における都市化の進展と環境問題』国際シンポジウ  
ム報告集 29-32頁

### 2007年(平成19年)

- 『「世界地図」の誕生』日本経済新聞出版社(278頁)(韓国語訳2009)
- 「インド洋の陸封と解放——「プトレマイオス図・イドリースィー図・古今華夷区域惣要図」関係論」  
藤井譲治ほか編『大地の肖像——地図・絵図が語る世界』京都大学学術出版会 29-53頁
- 「西域北道オアシス地帯での農耕技術概査」『オアシス地域研究会報』6巻1号 総合地球環境学研  
究所 91-98頁
- 「東西トルキスタンでの城市・城塞遺跡の立地特性——観察リポートの草稿」『オアシス地域研究会  
報』6巻1号 総合地球環境学研究所 99-105頁
- 「ワークショップ テーマ1:文明/文化と地球化時代を捉える視点」京都文化会議組織委員会編『京  
都文化会議2006——地球化時代のこころを求めて——報告書』57-59頁
- 「隠れた主役「港」」『東京人』2007年7月号(242) 11頁

### 2006年(平成18年)

- 「東アジアそして日本のなかで、京都を「よむ」」『京都げのむ』6号 9-16頁
- 「文化圏と生態圏の発見」山室信一編『空間形成と世界認識』(岩波講座「帝国」日本の学知)8)  
岩波書店 311-351頁
- 「時計台記念館の歴史資料室」『京大広報』609号 2095頁

### 2005年(平成17年)

- 「ウィレムスタットとパラマリボ:植民都市の2類型」布野修司編『近代世界システムと植民都市』  
京都大学学術出版会 408-430頁
- 「フィリピン ビガン市でのフィールドノートから——植民都市建設と1573年植民令」『立命館地  
理学』17号 1-19頁
- 「住居のプロクセミクス」布野修司編『世界住居誌』昭和堂 358-368頁(中国語訳2010)
- 「イリ河流域への私的なまなざし——雑ばくな比較の視座から」『オアシス地域研究会報』5巻3号  
総合地球環境学研究所 33-40頁
- 「ジュンガル・イリ盆地の車窓学——「風景の写経」から」『オアシス地域研究会報』5巻3号 総合  
地球環境学研究所 53-59頁
- 「ワークショップ I 『融和の文化とこころ』討論記録」京都文化会議組織委員会編『京都文化会議  
2004——地球化時代のこころを求めて——報告書』106-123頁
- 「シンポジウム<古代インド世界の王権と儀礼>「東南アジア地域研究からの話題提起」『日本南ア  
ジア学会第18回全国大会報告要旨集』112-114頁

「ゴア州」嶋田卓編『巨大市場インドのすべて』ダイヤモンド社 220-224頁

「ユーラシア」「中央ユーラシア」「オアシス民」「遊牧民」「海民」「移動と定住」「馬と船」『国際政治辞典』(辞典項目)弘文堂

#### 2004年(平成16年)

「アジア・アフリカの農耕をたずねる」岩波書店編集部編『フィールドワークは楽しい』(岩波ジュニア新書474)岩波書店 137-158頁

「チベット見聞」『京都大学東南アジア研究所 NESLETTER』No.50 5頁

「進取と望郷——カナダ移民滋賀県人会の聞き取り調査報告 聞き取り対象者平居利夫・西畑英治」『人間文化』vol.15 53-58頁

「州をゆく——第11回 ゴア州編」『Indo Watcher: Gateway to the Indian Business』vol.82 34-35頁

「海域世界に開かれた内陸盆地都市」京都文化会議組織委員会編『京都文化会議2003——地球化時代のこころを求めて——報告書』66-67頁

「他者を考える想像力」京都文化会議組織委員会編『京都文化会議2003——地球化時代のこころを求めて——報告書』76-77頁

#### 2003年(平成15年)

『守山市誌 古絵図篇』守山市(246頁)

「アジアの都城とコスモロジー」布野修司編『アジア都市建築史』昭和堂 192-253頁(中国語訳2006)

「大学博物館の思想——大学にとって博物館とはなにか」(巻頭言)『滋賀県立大学 学芸員課程報告書』i-ii頁

「カンティエノ図のこと——地図には傑作や名作はないのか」(巻頭言)『地図情報』23巻2号2頁

「トンプクトゥ(マリ)——「黄金の都」の残映」(「建築のアジア」23)『建築雑誌』118集 1511号6頁

#### 2002年(平成14年)

「比較植民都市論——起源と系譜をめぐって」布野修司編『植民都市の起源・変容・転成・保全に関する調査研究』京都大学5章 1-22頁

「認識空間としての日本」網野善彦ほか編『コスモロジーと身体』(岩波講座「天皇と王権を考える」8)岩波書店 71-96頁

「市場——イラン」青木保ほか編『空間』(岩波講座「アジア新世紀」1)岩波書店 83-95頁

「環境調和型農耕としてのデカンのミレット栽培」柳沢悠編『開発と環境』(「現代南アジア」4)東京大学出版会 9-29頁

「7つの王都が生まれたデリー三角地」『デリーとアーグラ』(「週刊朝日百科世界100都市」046) 4-5頁

「もし地上に楽園ありとせば、そはここなり」『デリーとアーグラ』(「週刊朝日百科世界100都市」046) 6-9頁

「都市の王権と宇宙論」(岡村秀典ほかとの座談会)『建築雑誌』117集 1488号 19-25頁

(書評)長田俊樹『ムンダ人の農耕儀礼：アジア比較稲作文化論序説——インド・東南アジア・日本』(「日文研叢書」21)国際日本文化研究センター『南アジア研究』14号 169-176頁

#### 2001年(平成13年)

「都市と農耕文化」日本農業研究所編『農耕文化の意味と課題』(「日本農業研究シリーズ」8)日本

農業研究所 165-182 頁

“Continuity and change in millet cultivation systems in a village on Deccan Plateau,” 応地利明編『熱帯半乾燥地でのミレット農耕と他農耕との接触複合状況および農業再生に関する調査研究』京都大学 1-20 頁

「宮崎市定氏旧蔵地図 解説」京都大学付属図書館編『近世の京都図と世界図——大塚京都図コレクションと宮崎市定氏旧蔵地図』京都大学 55-76 頁

「大英帝国の「世界遺産」」『京大学生新聞』2001 年 12 月 20 日号

「世界図」『角川世界史辞典』514-515 頁

(書評) 白石隆『海の帝国——アジアをどう考えるか』(「中公新書」1551) 中央公論新社『地域研究スペクトラム』6 号 103-106 頁

(書評) 高橋正隆ほか編『日本文化のかなめ』サンライズ出版『人間文化』vol. 10 77-78 頁

#### 2000 年 (平成 12 年)

「フランスのアジア進出と植民都市」布野修司編『植民都市の形成と土着化に関する比較研究』京都大学 43-50 頁

「大英帝国における帝国意識と首都のかたち」布野修司編『植民都市の形成と土着化に関する比較研究』京都大学 111-120 頁

“Agro-ecology of millet cultivation in Deccan :Continuity and change,” RPSA ed., *Economic development and the quality of life in South Asia*, pp.167-186

「アジア・アフリカ縦横無尽——応地利明教授最終講義」『地域研究スペクトラム』5 号 2-16 頁

#### 1999 年 (平成 11 年)

「東南アジアをどう捉えるか (2) —— インド世界から」坪内良博編『<総合的地域研究>を求めて』京都大学学術出版会 317-349 頁

「東アジアからの地理的世界認識」樺山紘一ほか編『遭遇と発見——異文化への視野』(岩波講座「世界歴史」12) 岩波書店 155-180 頁

「現地通信：テルアビブにて——イスラエル国家見聞」『地域研究スペクトラム』2 号 46-51 頁

(書評) 小杉泰『イスラーム世界』(「21 世紀の世界政治」5) 筑摩書房『地域研究スペクトラム』2 号 75-78 頁

(書評) 町野和嘉『Mecca メッカ巡礼』集英社『地域研究スペクトラム』3 号 82-83 頁

#### 1998 年 (平成 10 年)

「マリ国におけるミレット農耕の諸類型と分布」川田順造編『ニジュール川大湾曲部の自然と文化』東京大学出版会 147-191 頁

「風土と地域」濱下武志ほか編『地域史とは何か』(「地域の世界史」1) 山川出版社 132-168 頁

「いざ、南アジア、西アジアへ——新しい地域研究大学院の意義と展望」(インタビュー)『地域研究スペクトラム』創刊号 3-15 頁

(書評) 長崎暢子『ガンディー——近代の実験』(「現代アジアの肖像」8) 岩波書店『地域研究スペクトラム』創刊号 49-51 頁

#### 1997 年 (平成 9 年)

「地誌研究と地域研究——認識論的ノート」西川治編『地理学概論』(「総観地理学講座」1) 朝倉書店 229-249 頁

“Survey of farming methods in West Africa and South Asia (2): Presentation of collected informations =

Recherche sur les méthodes agricoles dans l'Afrique d'ouest et l'Asie de sud (2): Présentation des informations recueillies," Ohji, Toshiaki ed., *Comparative study of millet cultivation between Sahel and Deccan 2 = Etude comparative de la culture de mils entre Sahel et Deccan 2*, CSEAS, pp.87-105

「アジア南縁高温帯における土地利用編成」『日本農業気象学会 1997 年度全国大会講演要旨』518-528 頁

「地域間研究の海へ——地域研究の現段階」『総合的地域研究』12号14-16頁

「『アジアの農耕様式』の解題にかえて」農耕文化研究振興会編『アジアの農耕様式』（「農耕の世界、その技術と文化」IV）大明堂1-9頁

#### 1996年(平成8年)

『絵地図の世界像』（「岩波新書」新赤版480）岩波書店（226頁）

“Traditional rice cultivation methods and survey of plows in Thailand: With special reference to the development of plow technology,” 『東南アジア研究』33巻3号145-180頁

「インド<中原>からのびる点と線」小西正捷ほか編『インド・道の文化誌』春秋社19-33頁

“Survey of farming methods in West Africa and South Asia: Presentation of collected informations = Recherche sur les méthodes agricoles dans l'Afrique d'ouest et l'Asie de sud: Présentation des informations recueillies,” Ohji, Toshiaki ed., *Comparative study of millet cultivation between Sahel and Deccan 1 = Etude comparative de la culture de mils entre Sahel et Deccan 2*, CSEAS, pp. 1-36

#### 1995年(平成7年)

(監修)「インド——歓喜する10億の神々」『GEO』1995年9月号28-70頁

「インド」矢野暢編『世界単位論』（講座「現在の地域研究」2）弘文堂187-209頁

「前近代アジア都市論構築のための試論」『建築思潮』03 115-126頁

「カースト制度の浄・不浄」『GEO』1995年9月号44-45頁

#### 1994年(平成6年)

「世界に誇るデカンの雑穀農耕」辛島昇編『ドラヴィダの世界』東京大学出版会182-195頁

“Essai de mise au point d'une carte agricole de la République du Mali: Le cas de la culture des mils,” Kawada, Junzo ed., *Boucle du Niger :Approches multi-disciplines 4*, IRLCAA, pp.121-179

#### 1993年(平成5年)

「日本図と世界図——絵地図に描かれた中世日本の異域」荒野泰典ほか編『自意識と相互理解』（「アジアのなかの日本史」5）東京大学出版会287-319頁

「南アジアの都城思想——理念と形態」板垣雄三編『イスラームの都市性』（「学振新書」16）日本学術振興会209-225頁

「ニジェール川内陸デルタの稲作——アジア研究者の視点から」佐々木高明編『農耕の技術と文化』集英社66-81頁

「シルクロードと犁——トルキスタン型インド犁をめぐる東西交流」『西南アジア研究』38号3-16頁

「タイにおける稲作慣行農法と犁の調査——犁耕の起源とも関連させて」『東南アジア研究』31巻2号104-134頁

「前近代アジア都市論構築のために」『東南アジア学フォーラム FORUM 通信』No.9 1頁

「南アジアの食と農の多様性」『琉球新報』1993年12月21日号

「21世紀への生態史観：世界単位をめぐる」(前田成文ほかとの座談会)『総合的地域研究』創刊準備号26-35頁

「南アジアの自然」金子量重ほか編『南アジアを学ぶ 300 冊』アジア民族造形文化研究所 5 頁

#### 1992 年 (平成 4 年)

辛島昇ほかとの共編著『南アジアを知る事典』平凡社 (1005 頁)

“Réflexion sur les conditions écologique de la riziculture dans la région s'étendant entre Mopti et Tombouctou, au Mali,” Kawada, Junzo ed., *Boucle du Niger: Approches multidisciplines 3*, IRLCAA, pp. 9-91

「ここに熱帯畑作のモデルがある——世界農耕の巨峰デカンの雑穀栽培」『国際交流』58 号 55-60 頁

「脱穀具・インド——1 トンのローラの下で穀実がつぶれないわけ」『季刊民族学』59 号 56 頁

「キャラバンサライ総論」板垣雄三・後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房 312-313 頁

「古代インドの理想都市」板垣雄三・後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房 42-43 頁

「アーグラ」板垣雄三・後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房 590-591 頁

「地理」辛島昇編『インド』(「世界の歴史と文化」7) 新潮社 60-70 頁

「社会」辛島昇編『インド』(「世界の歴史と文化」7) 新潮社 168-183 頁

「多様性を包み込む大きな歴史のために」(長崎暢子ほかとの座談会)『国際交流』58 号 2-21 頁

(書評) 多田博一『インドの大地と水』日本経済評論社『南アジア研究』4 号 83-84 頁

#### 1991 年 (平成 3 年)

“The ideal Hindu city of ancient India as described in the Arthaśāstra and the urban planning of Jaipur,” *East Asian Cultural Studies* 25(1-4), pp. 43-67

「バザールの諸相」『大学と科学』公開シンポジウム組織委員会編『都市文明イスラームの世界』クバプロ 70-92 頁

「農耕と農具のタイポロジー」アルシーヴ社編『すき・くわ・かま——土に生きるかたち』(INAX Booklet '91-1) INAX 26-39 頁

「デカン高原における雑穀の栽培技術」阪本寧男編『インド亜大陸の雑穀農牧文化』学会出版センター 141-172 頁

「ゴードーヴァリー・クリシュナー川デルタの稲作技術」『南アジア研究』3 号 38-61 頁

「景観・形態学派と「イスラームの都市性」研究」『マディーニヤ』37 号 10-11 頁

#### 1990 年 (平成 2 年)

「ムガル帝都デリー：アジア都市論の原郷」『月刊しにか』1 巻 4 号 32-37 頁

“Les technique de la culture du mil au Mali,” Kawada, Junzo ed., *Boucle du Niger :Approches multidisciplines 2*, IRLCAA, pp. 1-62.

「アジアの都城——南アジア」『重点領域研究 イスラームの都市性 研究報告』86 号 1-30 頁

「玄界灘の交易と農耕文化の交流」網野善彦ほか編『玄界灘の島々』(「海と列島の文化」3) 小学館 68-104 頁

“The West on the world map of medieval and early modern Japan,” *Proceedings of Medieval Workshop, Mutual Image: Medieval Europe and Pre-modern East Asia*, Univ. of Brit. Columbia, p. 5

#### 1989 年 (平成 1 年)

“Farm practices of millet in Andhra Pradesh villages in Central India,” Sakamoto, Sadao ed., *A Preliminary Report of the Studies on Millet Cultivation and its Agro-pastoral Culture Complex in the Indian Subcontinent*, Kyoto University, pp. 69-79

「古川説に対する二、三の疑問」NHK サービスセンター編『シンポジウム「海のシルクロードをも

とめて』三菱広報委員会 143頁

「アフリカの犁と農耕の系譜」(発表要旨)、『京都大学アフリカ地域研究年報』vol. 3 28-29頁  
(書評)石原潤『定期市の研究——機能と構造』名古屋大学出版会『南アジア研究』1号 146-148頁  
**1987年(昭和62年)**

「絵地図に現れた世界像」朝尾直弘ほか編『社会観と世界像』(「日本の社会史」7)岩波書店 299-338頁

「犁の系譜と稲作」渡部忠世責任編集『アジア稲作文化の生態基盤——技術をエコロジー』(「稲のアジア史」1)小学館 169-212頁

「インド稲作の性格——雑穀としての稲」渡部忠世責任編集『アジア稲作文化の展開——多様と統一』(「稲のアジア史」2)小学館 131-166頁

「乾燥地農業における農法的適応——南西アジア」海外学術調査に関する総合調査研究班編『海外学術調査コロキウム「乾燥・半乾燥地帯の農業——その伝統と変容」』同研究班 7-29頁

“Farm practices of millet and agricultural implements in Maidan region of Karnataka, South India,”  
Sakamoto, Sadao ed., *A Preliminary Report of the Studies on Millet Cultivation and its Agro-pastoral Culture Complex in the Indian Subcontinent*, Kyoto University, pp. 56-77

「インダス平原と水」小西正捷編『もっと知りたいパキスタン』弘文堂 254-271頁

「情報処理」と「情報創造」(巻頭言)『京都大学情報処理教育センター広報』No. 16 1頁

**1986年(昭和61年)**

「村落研究の統合的アプローチに関する考察——とくにインド村落研究の準拠枠を求めて」水津一朗先生退官記念事業会編『人文地理学の視圏』大明堂 485-495頁

「デカン高原南端部における定期市の規範的検討」『人文地理』38巻4号 289-315頁

「南インドの定期市と売り手の定期市巡回行動パターン——ネラマンガラ定期市を中心に」中村賢二郎編『歴史のなかの都市』ミネルヴァ書房 215-236頁

史学会例会「アジアの都市——寧波(中国)・カルカッタ(インド)・マニサ(トルコ)を中心に」(発表要旨)『史学雑誌』95編9号 92-93頁

「人工国家」パキスタン」『地理月報』337号 9-11頁

**1985年(昭和60年)**

「南アジアにおける畑作主穀類の播種方法——その類型設定の試みと分布」『西南アジア研究』24号 61-78頁

「西アジアの歴史的都市」藤岡謙二郎編『歴史的都市』(「講座考古地理学」3)学生社 223-233頁

**1984年(昭和59年)**

「自然と生産」辛島昇編『インド世界の歴史像』(「民族の世界史」7)山川出版社 126-160頁

“Land utilization in a south Deccan village: Contrast between tank-irrigation and rain-fed cultivation,”『東南アジア研究』22巻2号 171-196頁

「日本と天竺・インド——前近代日本におけるインドの地理的世界像」近藤治編『インド世界——その歴史と文化』世界思想社 224-241頁

「インド世界と日本人」(辛島昇ほかとの座談会)辛島昇編『インド世界の歴史像』(「民族の世界史」7)山川出版社 463-497頁

**1983年(昭和58年)**

(責任編集)『週刊朝日百科世界の食べもの 雑穀とマメの文化』(「テーマ編」3)朝日新聞社(85頁)



「明治期におけるチューネン『孤立国』の受容過程——その学説史的検討」京都大学文学部地理学教室編『空間・景観・イメージ』地人書房 7-35 頁

「インド亜大陸における村落社会の空間構成に関する研究——研究史の展望」『インド亜大陸における農業および農村社会の空間構成に関する研究』（科学研究費・一般研究（D）研究成果報告書）1-20 頁

「『成形図説』（1808）にみる赤米の栽培・加工技術——そのオーストロ=ネシア的要素の検出」『農耕の技術』6号 58-63 頁

「学際討論「赤米の文化史」」（坪井洋文ほかとの討論）『季刊人類学』14巻4号 3-66 頁

「大阪の「国際化」・「国際交流」と21世紀計画」『市政研究』61号 66-77 頁

「雑穀の料理文化」週刊朝日百科『世界の食べもの 雑穀とマメの文化』（「テーマ編」3）朝日新聞社 61-67 頁

「農牧業」『ズームアップ地理教材源』東京法令出版 113-141 頁

#### 1982年（昭和57年）

「わが国地理学へのチューネン『孤立国』の紹介——牧口常三郎著『人生地理学』における紹介をめぐって」京都大学文学部地理学教室編『地理の思想』地人書房 271-288 頁

「初期札幌農学校における地理学教育——Professor J. C. Cutter 述 “Lecture on the Geography of Europe”, 1881 を中心として」『人文地理』34巻5号 26-44 頁

「南アジア」祖父江孝男監修『社会科のための文化人類学』東京法令出版 218-243 頁

「多彩なインドの民家」杉本尚次責任編集『住む憩う』（「世界旅行——民族の暮らし」3）日本交通公社 58 頁

「雑穀の加工と料理」週刊朝日百科『世界の食べもの インド亜大陸 1』朝日新聞社 209-211 頁

#### 1981年（昭和56年）

鈴木秀夫ほかとの共著 高校教科書『地理』実教出版（310 頁）

「インド・デカン高原南端部におけるミレット農業の農法的検討——用水路灌漑にともなう農業・村落の変化とも関連させて」『京都大学文学部研究紀要』20号 1-90 頁

「いわゆる「アジア式畑作農業」の検討——インド亜大陸と西南アジアでの調査から」『地理』26巻7号 68-78 頁

「世界農業のとらえかた」、『じっきょう』No. 2 7-8 頁

#### 1980年（昭和55年）

“The adoption of H. von Thünen’s location theory in Japanese geography: In comparison with Anglo-Saxon countries,” Geography Institute, Kyoto University ed., *Geographical Language in Different Times and Places: Japanese Contributions to the History of Geographical Thoughts*, pp. 78–81

“Cultural and Social Geography,” *Recent Progress of Natural Sciences in Japan 5*, pp. 99–107

“Chikkamanali: A village with canal irrigation,” Fujiwara, Kenzou ed., *Geographical Field Research in South India 1978: A Progressive Monograph*, Hiroshima Univ, pp. 117–128

“Aralamallige: A village with a tank,” Fujiwara, Kenzou ed., *Geographical Field Research in South India 1978: A Progressive Monograph*, Hiroshima Univ, pp. 146–151

#### 1979年（昭和54年）

「南インドにおけるシコクビエの栽培技術——カルナータカ州バンガロール県の1農村での調査から」『農耕の技術』2号 1-31 頁

「テヘラン」高野史男ほか編『世界の大都市』大明堂 54-72頁

「パキスタン」梅棹忠夫ほか編『目でみる世界の国168』TBSブリタニカ 112-131頁

**1978年(昭和53年)**

「カルカッタの形成と発展——19世紀における都市整備を中心にして」藤岡謙二郎先生退官記念事業会編『歴史地理研究と都市研究』(下)大明堂 436-445頁

**1977年(昭和52年)**

「カルカッタの建設と都市形成——十八世紀末までの都市誌の試み」『史林』60巻6号 1-43頁

「インド村落研究ノート——とくに19世紀における孤立・小宇宙的村落観の形成と崩壊をめぐって」『人文地理』29巻3号 33-69頁

「パンジャブ農村における農法変化の研究(1)——「緑の革命」との関連において」広島大学地誌研究資料室編『パンジャブにおける「緑の革命」——技術・基盤と効果』広島大学 1-28頁

**1976年(昭和51年)**

「カラチ」・「ボンベイ」・「カルカッタ」藤岡謙二郎ほか編『世界の百万都市』朝倉書店 202-213頁(書評) 奥井復太郎著・日本都市学会編『都市の精神——生活論的分析』日本放送出版協会『季刊人類学』7巻3号 213-215頁

**1975年(昭和50年)**

篠田統ほかとの共著『五穀・果実』(「日本の模様」21)光琳社(210頁)

「パンジャブ後進農村の展開——ロパール県サラマトプール村の場合」石田寛編『インド・パンジャブの動態地誌的研究』広島大学 68-87頁

(須原美士雄ほかとの共著)「機能的関係」京都大学文学部地理学教室編『中心集落とその背域』京都大学 9-23頁

「調査のまとめと今後の課題」京都大学文学部地理学教室編『中心集落とその背域』京都大学 51-69頁

**1974年(昭和51年)**

「インド・パンジャブ平原における農村の展開と「緑の革命」——アムリツァー県カッガルバナ村を事例として」『史林』57巻5号 25-78頁

“Salamatpur: A village in ferment in cho-land without the canal irrigation facilities,” Ishida, Hiroshi ed., *Geographical Field Research in Northwestern India: A Progressive Monograph*, Hiroshima Univ., pp. 156-162

**1971年(昭和46年)**

「西南アジア農村の土地利用秩序について——その類型把握と日本・北西ヨーロッパとの比較」織田武雄先生退官記念事業会編『人文地理学論叢』柳原書店 365-377頁

**1968年(昭和43年)**

「都市化の展開と農業の変容」明治用水土地改良区編『明治用水の汚濁をめぐって』明治用水土地改良区

**1967年(昭和42年)**

織田武雄ほかとの共著『西南アジアの農業と農村』京都大学人文科学研究所(360頁)

「農家経済調査の結論」酒井正三郎編『愛知用水と地域開発』東洋経済新報社

「近代日本における地域形成——主として農業の分野から」(シンポジウム報告要旨)『経済地理学年報』vol. 13 no. 2 42-44頁

**1966年 (昭和41年)**

「第5次イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査報告——イラン・アフガニスタン・パキスタンにおける農村調査」『東方学報』37冊 467-507頁

「西パキスタンの農業に関する二、三の考察——とくに集約化実現と家畜の厩肥的機能との結合関係をめぐって」『名古屋大学文学部研究論集』14号 245-261頁

**1965年 (昭和40年)**

「インドの人種と社会」今西錦司ほか編『民族地理』(下) 朝倉書店 105-122頁

「明治以降における稲作商品生産の展開——供給地と消費地との分化をめぐって」『人文地理』17巻5号 1-30頁

**1964年 (昭和39年)**

「乾燥農業と湿潤農業との間に——北パキスタン農村でのフィールドノートから」『人文地理』16巻1号 40-63頁

「インドの乾燥農業」『アジア・アフリカ文献調査報告』50冊 1-22頁

「北部アフガニスタン」『西アジア』(「世界地理風俗体系」12) 誠文堂新光社 92-100頁

**1962年 (昭和37年)**

「明治中期の作付統計」『人文地理』14巻3号 79-89頁